

弘前学院大学ティーチング・ポートフォリオ

文学部・英語・英米文学科
奥野 武志

作成日 2024年1月31日

1. 教育の責務

2023年4月に弘前学院大学に着任した1年目である。主に教職課程の科目を担当しているが、文学部基礎科目の基礎演習も担当している。また、英語・英米文学科新生のゴールデンウィーク明けの面談等も担当した。

2023年度担当授業

科目名	学年	授業種別	開講学期	概要
基礎演習 I	1年	演習	前期	文献輪読
基礎演習 II	1年	演習	後期	文献輪読
教育と人間A	1年	講義	前期	講義・ディスカッション
教職教養C	2年	講義	前期	ディスカッション
教職教養D	2年	講義	後期	ディスカッション
教育原理	2年	講義	前期	ディスカッション
教育史	2年	講義	後期	文献輪読
教師論	2年	講義	前期	講義・ディスカッション
教育課程とカリキュラム・マネジメント	2年	講義	後期	講義・ディスカッション
道德教育の理論と実践	2年	講義	後期	ディスカッション・模擬授業
教育方法の理論と実践	3年	演習	後期	ディスカッション・模擬授業
アクティブ・ラーニングの理論と実践	2年	講義	前期	ディスカッション・模擬授業
教育実習	4年	実習	通年	事前・事後の指導を含む
教職実践演習（中・高）	4年	演習	後期	オムニバスで実施

2. 教育の理念

まず、私自身が文献資料に基づく実証研究を通じて身につけたエビデンスに基づく思考の重要性を学生に伝えたいと考えている。基本的事実を事前に確認しないでディスカッションをしたとしても、空疎な議論になってしまう。まずはエビデンスをしっかりと確認することの重要性を学生が理解し実践してもらうよう心がけたい。

さらに、教職に関係した授業を行うにあたっては、現場の教員として学級担任や校務分掌等を実際に経験した立場からの見解も折に触れ学生に還元するように心がけたい。特に、教師の働き方改革や研修のあり方等時事的に問題になっている教育現場の実態については、私自身が専任教員として教育現場で得た経験に基づいて、よりリアルな現場の情報を学生に伝えることができるのではないかと考えている。

3. 教育の方法

・少人数授業の場合

少人数授業の場合は、テキストや資料をじっくり読み込んで読解力や思考力を高めることをこころがけている。その上で、全員に発言する機会を設けて表現力を高めるよう心がけている。

・多人数授業の場合

多人数授業の場合は、前半に当該回のテーマについて私が基本的な事実について講義した後、後半はグループに分かれて話し合い、代表者が前に出て話し合いの内容を発表するスタイルで行っている。さらにteams経由で毎回授業の振り返りを学生に書き込ませることを通じて考えを深める機会をつくるよう心がけている。

4. 教育の成果

・ディスカッションを通じて学生の考える力を伸ばし、また、発表させたり、振り返りを書かせたりすることを通じて学生の表現力を伸ばすことができた。

例として、「基礎演習」の振り返りに記された学生のコメントから以下に数人分抜粋する。

「この講義を通して、レポートに少しずつ慣れてきました。それぞれの発表を聞いて、私ならどんな質問をするのかなど、考える習慣ができました。アルバイトの面接では、難しい質問にも焦らず答えることが出来ました。自分の考えを言葉にすることの大切さが分かりました。」

「色々な角度からみんなの意見を聞き合うことで、たくさんの学びを得られた。」

「後期の授業を通して、今まであまり深く考えなかった事柄を深く考えることで、新たな視点で物事を考えることができるようになった。」

「疑問に思うことを共有して、賛同や反論をもらうという経験はほとんどなかったので、疑問を口に出す面白さを知ることができた。前期は哲学的な思考が多くて、反論することが難しかったが、腑に落ちるように説明するのはとても良い経験になったと思う。後期は、実際に経験したことのある理不尽についてのディスカッションだったため、今までのもやもやを口に出せるという意味でも、おもしろい授業だったし、深く考えることのない話題にも焦点を置いてくれたおかげで、新たな側面も見つけ出すことができたりして、興味深かった。」

5. 教育の改善

・担当授業全体を見通した授業題材の再構成

担当する教職の授業全体を見通して内容の重複を整理し、より効果をあげるよう扱う内容の配列を見直す。

・視聴覚教材の一層の活用

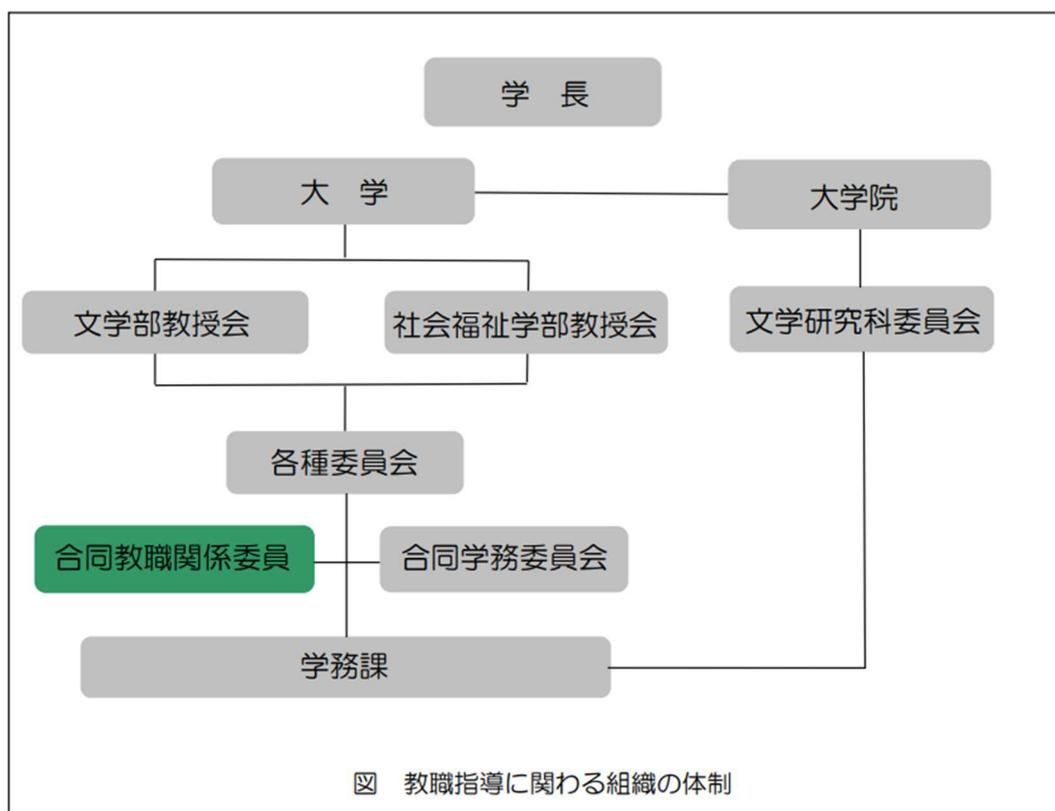
公開されているニュース動画等を学生に視聴させ具体的なイメージをつかませることの学習効果は高いと感じた。動画のリサーチにかかる時間を増やして授業で使用する視聴覚教材を増やしたい。

6. 教育の目標

・「組織の体制」の改善

教育を含め仕事を遂行していくにあたって個人でできることには限界がある。下記は本学ホームページで公開されている「教員養成に係る組織の体制」である。各組織の関係がどうなっているのか全く分からず、また、実際に教員採用試験の説明会を行っている本学就職課が載っていない。まずは仕事をする上で大前提となる「体制」を整備することが必須である。

Ⅲ 教員養成に係る組織の体制



【資料】

1. シラバス
2. 第1回の授業で配布したレジュメ
3. 学生の振り返りからの抜粋
4. 「教員養成に係る組織の体制」

<https://www.hirogaku-u.ac.jp/%E2%85%A2soshikinotaisei%E3%80%80.pdf>